

技術本部 石垣幸整 yukito.ishigaki@nittoc.co.jp

1. 安全・安心な国土造りに貢献する会社

日特建設は、昭和20年代に、ダムの地質調査と基礎処理を生業としてスタートしました。以来、地質に強く、基礎工事を得意とする会社という遺伝子は、環境防災、維持補修、都市再生の工事を主力とする現在の弊社にも脈々と受け継がれています。環境防災分野では、緑や生態系、景観の回復、建設副産物の抑制や発生土のリサイクルなど、自然環境との調和を図る環境保全型技術を駆使した防災工事に取り組んでおり、「ジオファイバー工法」は世界遺産清水寺境内の崩壊斜面復旧工事に採用されました。近年はのり面構造物長寿命化技術として、老朽化のり面の健全性に応じた対策工も提案しています。

2. モルタル吹付面や岩盤の緑化「ファイバーソイル緑化ステップ工法」

ファイバーソイルを植生基盤として、岩盤面、ずり捨て場、既設モルタル・コンクリート吹付面等にステップ状に吹付造成することによって、これらの無土壌・急勾配のり面でも永続緑化を可能にした工法です。1973年にわが国で初めて開発された無機質系植生基盤吹付工であり、数多くの実績を有しています。

3. 環境に優しいのり面保護工「ジオファイバー工法」

【平成28年度 準推奨技術（新技術活用システム検討会議（国土交通省）】

砂と繊維だけで、せん断に強い土構造物をのり面に造成す

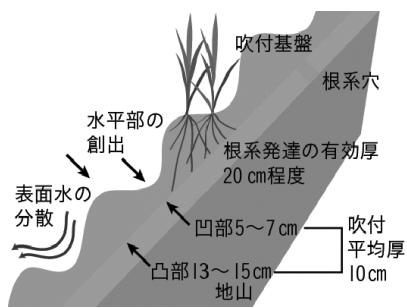


図-1 ファイバーソイル緑化ステップ工法 模式図



写真-1 ジオファイバー工法施工状況(清水寺)

る工法で、吹付のり枠の代替工法としてCO₂削減に貢献します。全面緑化が可能で樹林化形成にも有利であり、自然環境との調和が図れます。

4. 森林表土を利用したのり面緑化工法

パーク堆肥を主とする一般的な植生基材に森林表土を混合する方法に加えて、植生基材の代わりに現地発生材（掘削土やチップ材）を利用した工法を開発し、生態系や環境に配慮した緑化を行っています。

- ① 「自生種回復緑化工法」：【NETIS No.CG-080004V】リターミキサーで表土を吹付けに適した性状に改良し、汎用モルタル吹付機で植生基材と混合して吹き付けます。
- ② 「ネッコチップ工法」：表土を含む掘削土と生チップを利用。耐侵食性の優れた基盤で自然侵入促進工も可能です。
- ③ 「カエルドグリーン工法」：表土を含む掘削土・浚渫土・脱水ケーキなど幅広い種類の土をリサイクルできます。

5. 強酸性土壌のり面に緑を回復「サンダーグリーン工法」

中和作用のある「サンダーパウダー」と耐酸性VA菌根菌資材「サンダーBio」の複合効果で、永続的に強酸性土壌のり面を緑化します。

表-1 会社概要と連絡先

所 在 地	東京都中央区東日本橋3-10-6
創立年	昭和22年12月
資本金	60億円
従業員	技術系901名 事務系259名
連絡先	03-5645-5110 (技術本部)



写真-2 カエルドグリーン工法施工状況（与那国島）